

社会資本総合整備計画

^{みすみ}三角地区都市再生整備計画

平成22年12月10日

熊本県 ^{うきし}宇城市

都市再生整備計画(第5回変更)

み す み ち く
三角地区

く ま も と け ん う き し
熊本県 宇城市

平成22年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	宇城市	地区名	三角地区	面積	806 ha
計画期間	平成 18 年度 ～ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ～ 平成 22 年度				

目標 大目標:海洋型地域資源を活かした観光・交流の促進と誰もが安心して暮らせるゆとりあるまちづくり 目標1:港周辺と地域内の観光資源を連携した新たな観光ルートを開発し、海洋型観光レクリエーションの拠点としての魅力を高め、観光客等の増加を図る。 目標2:防災性を確保し地域住民間の交流のみならず、地域貢献型医療・福祉関係施設等との交流をも図ることで、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりの形成を図る。 目標3:地域で動き出したまちづくり活動を支援し、観光振興やまち再生にかかるソフト面の充実を図る。							
目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 本市は平成17年1月に5町が合併し、美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた自然景観をもつ、バランスのとれた水と緑の心豊かな地域である。位置は熊本県のほぼ中央に位置し、九州の経済大動脈である国道3号と西は天草、東は宮崎県への結東点という地理的条件に恵まれている。 その中で、旧三角町ゾーンは古くから海上交通の結節点であり、温暖な気候を生かした果樹栽培も盛んで、夏場は海水浴客でにぎわう戸嶋島があるなど海洋資源に富んだ港町として栄えたところである。中でも、三角西港は開港以来約120年の伝統をもつ歴史的にも価値ある港であることから、歴史的建造物の再整備が行われ、本市の貴重な観光資源となっているがまだ十分活かしきれていない状況にある。 現段階での観光客誘致対策としては、毎年みなと祭り等の各種イベントを開催している程度である。 まちの最近の状況は、商店街では空き店舗が目立ち、三角～島原間を就航しているフェリーについても、利用者の減少や燃料油の高騰、経営状況の変化等により平成18年8月29日に廃止されている。 また、高齢者比率も平成21年8月末現在で34.5%と他地区に比べて高い傾向にある(三角地域全体の人口に占める65歳以上の高齢者の割合)。 ただ、国立病院の廃止を転機に県内でも高度医療で貢献している済生会病院の進出と福祉系学校の開設があり、若者等の地域内人口増に貢献している。まちづくり活動については、商店街賑わい再生と三角西・東港魅力再構築に向けての『三角町活性化プロジェクト検討会』がH17年11月に発足。また、まちづくり交付金を活用したワークショップを開催し、平成18年11月には『宇城市三角地域活性化計画』を策定した。							
課題 ①合併後の新市の観光拠点として、毎年度減少している観光入込客数を増やすために、周辺地域と連携した魅力ある海洋型レクリエーションの観光ルートを形成する必要がある。 ②高齢化が進み、商店街も衰退している『まち』を活性化するために、地域住民間や医療・福祉施設関係者との交流を促進するための防災性を確保した施設整備や文化教育関連施設整備等を図り、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを形成する必要がある。 ③観光・交流の振興と、誰もが暮らしやすいまちづくりの形成をソフト面から支援するため、まちづくり活動を担う団体等を支援・育成する必要がある。							
将来ビジョン(中長期) 観光・交流施設の整備により、来街者と住民が交流する賑わいと活気あふれるまちづくりによる港町の賑わい再生。 ●第1次宇城市総合計画で本市の将来都市像を掲げられている「美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた未来に輝くフロンティアシティ・宇城」を目指します。 ●新市建設計画では、3つの基本目標(①誰もが暮らしやすいまちづくり、②誇りあるふるさとづくり、③力強い産業づくり)が掲げられており、その中で当地区ゾーンは安心・安全で快適に暮らせるまちづくり、地域観光の基盤強化を図るべき地区として位置づけられている。							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
観光入込客数	人/年	熊本県観光統計による三角町への観光入込み客数	地域内観光資源の魅力度を向上し、近隣の上天草市や島原市と連携することで、観光客の増加が見込まれることから指標とし、6%増を目指す。	752,022	H16	800,000	H22
地域交流センターの利用者数	人/年	宇城市三角センターを利用する人数	地域交流センターが再整備され、地域住民と医療・福祉施設関係者等との協働によるまちづくり活動等で交流が活発化することから指標とし、8%増を目指す。	23,044	H16	25,000	H22
まちづくり活動参加者数	人/年	観光・交流による地域の活性化を図るためのまちづくり活動参加者数	参加者が増加することで観光サービスやまちづくりの充実が期待され、観光・交流の促進が図られることから指標とし、倍増を目指す。	31	H17	60	H22
生涯学習拠点施設の利用者数	人/年	(仮称)三角地区生涯学習拠点施設を利用する人数	生涯学習拠点施設が整備され、三角西港等の伝統文化の継承及び住民の教育交流が活発化することから指標とし、15%増を目指す。	19,156	H17	22,000	H22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
・整備方針1 観光客等の増加 海洋型観光地のイメージアップを醸し出すため、整備されつつある三角西港の舗装高質化を図る。また、新たな観光振興策として、海水浴場でにぎわう戸馳島のさらなる魅力アップのために多目的広場を整備する。	地域生活基盤施設(基幹／(仮称)戸馳総合多目的グラウンド) 高質空間形成施設(基幹／三角西港インターロッキング) 地域生活基盤施設(基幹／情報案内板)
・整備方針2 誰もが安心して暮らせるゆとりあるまちづくりの形成 高齢者が元気に住みやすいまちづくりを目指すため、避難所としての機能をもった地域住民や医療・福祉施設関係者との交流を促進する拠点施設及び伝統文化の継承、住民が教育交流を活発化する拠点施設を整備し、それら施設や商店街等へのアクセスとなる道路の整備や高齢者等に配慮して安心・安全な道路整備を行う。	地域創造支援事業(提案／公共公益施設:三角地区生涯学習拠点施設) 地域生活基盤施設(基幹／地域防災施設:宇城市三角センター) 道路(基幹/高々崎線他4路線) 地域創造支援事業(提案／跨橋修景工事)
・整備方針3 まちづくり活動の支援 商店街再生や地域観光振興等の目的に立ち上がったまちづくり団体と連携してソフト面から観光・交流を促進するため、その団体等の活動に対して支援を行う。	まちづくり活動推進事業(提案/ワークショップ等)
その他 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 ・整備する地域交流センター等を有効活用し、継続的なまちづくり談義等を開催していくことで、まちづくり活動の担い手を育成する。 ・観光交流の更なる促進を図るため、現在の各種イベントを継続的に開催するとともに、整備された施設を活用したイベントを開催していく。 ○交付期間中の計画管理 ・交付期間中においては、各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、観光協会や地域団体と連携して、毎年、事業成果の評価や事業の進め方の改善を行うための協議を行う。	

ウキ
三角地区(熊本県宇城市) 整備方針概要図

目標	海洋型地域資源を活かした観光・交流の促進と誰もが安心して暮らせるゆとりあるまちづくり	代表的な指標	観光入込客数 (人/年)	752,022人 (16年度) → 800,000人 (22年度)
			地域交流センターの利用数 (人/年)	23,044人 (16年度) → 25,000人 (22年度)
			まちづくり活動参加者数 (人/年)	31人 (16年度) → 60人 (22年度)

